

「富士川流域圏の居住地環境における好まれる景観とレクリエーション行動について」

山梨大学工学部 樋口 忠彦  
 俣 べ る く 明石 益夫

1. 研 究 の 目 的

日本人にとって、居住地環境として重要な自然とはどのようなものなのであろうか？ 本調査・研究では、このような問題意識を発端として、居住地周辺における自然環境の姿を、そこに住む人々の具体的な行為を通して明らかにすることとした。

我国における、近年の都市化状況は、居住地環境に対して急速な変化をもたらしてきた。この変化は人々に対して身近かな自然環境の在り方を問う契機を与えつつある、と言えよう。

本調査・研究は、居住地周辺の自然環境と住民とのかかわりを明らかにすることによって、人々にとって重要な居住地環境の姿を把握しようとするものである。具体的には(1)人々が好きで眺める風景、(2)身近かな自然との接触行動(レクリエーション行動)のそれぞれについて地図記入によるアンケート調査を行ない、この分析により、居住地環境と人々に好まれる景観とそれを眺める視点場との関係、自然との接触行動と居住地環境との関係、失われた自然等を明らかにし、居住地環境として大切な地点の把握を行なった。

2. 調査の方法及び調査地域の選定

前述した居住地周辺における景観及びレクリエーション行動にとって重要な自然環境を把握するために、居住者に対してアンケートによる実態調査を実施した。

この方法は、先づ出来るだけ様々な居住地の形態に育くれた人々を対象として抽出するため、比較的变化に富んだ居住条件をもつ大河川の流域圏において調査サンプルの抽出を行なった。この流域圏は笛吹川→富士川流域圏とし、その中から、国土調査地域メッシュ第三次コード(標準メッシュ)を1ユニット(地区)として、人口密度、就業構造、地形区分、地被、地形パターンを指標にすることにより、

出来るだけ多様な特徴をもつ計20地区を抽出して、それぞれの地区毎に75人前後の居住者に留置・面接回収法により、地図記入を中心としたアンケート調査を行なった。調査の対象とした20地区の名称及び各指標は表2-1の通りである。

表2-1 調査対象地の指標一覧

| 地区NO | 市町村・地名    | 人口密度<br>(人/1km <sup>2</sup> ) | 就業構造<br>(第1次産業%) | 就業構造<br>(第2次産業%) | 就業構造<br>(第3次産業%) | 地形区分    | 地 被                   | 断面パターン図 |
|------|-----------|-------------------------------|------------------|------------------|------------------|---------|-----------------------|---------|
| 1    | 甲府市・上横瀬町  | 5.0                           | 29.1             | 4.3              | 56.6             | 中起伏山地   | 畑・ブナ林                 |         |
| 2    | 甲府市・青地    | 91.9                          | 0.2              | 22.9             | 76.9             | 扇状地性低地  | 市街地                   |         |
| 3    | ・ 和戸町     | 14.0                          | 21.7             | 23.6             | 54.7             | 三角州性低地  | 住宅地・ぶどう畑              |         |
| 4    | 田舎町・玉穂村   | 19.3                          | 21.3             | 32.9             | 45.8             | 三角州性低地  | 茶畑・宅地・水田              |         |
| 5    | 山梨市・上神内川  | 27.7                          | 14.9             | 36.4             | 50.7             | 扇状地性低地  | 宅地・ぶどう畑               |         |
| 6    | 勝沼町・赤坂地   | 6.8                           | 53.2             | 11.7             | 35.1             | 砂礫台地性低地 | ぶどう畑                  |         |
| 7    | 一宮町・孤新居地  | 6.2                           | 67.6             | 11.3             | 21.1             | 扇状地性低地  | 根畑・ぶどう畑               |         |
| 8    | 御坂町・船留地   | 7.0                           | 50.4             | 15.4             | 34.2             | 中起伏山地   | ぶどう畑                  |         |
| 9    | 中道町・右左口   | 6.4                           | 61.5             | 15.8             | 22.7             | 大起伏山地   | 茶畑                    |         |
| 10   | 下都町・湯の町   | 5.9                           | 0.5              | 10.4             | 89.1             | 中起伏山地   | ブナ林・クヌギ・コナラ           |         |
| 11   | 下都町・古閑    | 3.7                           | 20.4             | 52.9             | 46.7             | 小起伏山地   | クヌギ・コナラ               |         |
| 12   | 上九一色村・本郷  | 2.2                           | 3.5              | 3.5              | 93.0             | 火山山麓地   | ブナ林・クヌギ・ミズナラ          |         |
| 13   | 身延町・和田    | -                             | -                | -                | -                | 砂礫台地性低地 | 水田・クヌギ・コナラ            |         |
| 14   | 富士宮市・富士ヶ丘 | -                             | -                | -                | -                | 火山山麓地   | ぶどう畑・牧草地              |         |
| 15   | 芝川町・谷戸地   | 1.5                           | 9.9              | 58.0             | 52.1             | 中起伏山地   | 水田・ブナ・ヒノキ・雑木林         |         |
| 16   | 富士宮市・坂下地  | 4.0                           | 19.5             | 48.3             | 52.2             | 小起伏山地   | 水田・クヌギ・コナラ・ブナ・ヒノキ・雑木林 |         |
| 17   | 富士宮市・中心部  | 81.3                          | 1.2              | 33.2             | 65.6             | 砂礫台地性低地 | 市街地                   |         |
| 18   | 富士市・今宮地   | 61.1                          | 36.6             | 35.7             | 27.7             | 火山山麓地   | 茶畑                    |         |
| 19   | ・ 琴原地     | 25.8                          | 14.6             | 50.0             | 35.6             | 砂礫台地性低地 | 市街地                   |         |
| 20   | 富士川町・岩瀬地  | 24.7                          | 6.2              | 46.6             | 47.2             | 小起伏山地   | みかん                   |         |

これらの各地区を抽出した指標は、富士川流域圏の多様な居住地環境を把握するために、次の様な観点から選定した。

(1) 人口密度 ; 周辺の自然環境とのかかわりに関係があると考えられるのが人口の密集状況で

あろう。抽出した地区は、人口密度が「疎」から「密」な地区まで適度に分散することに留意した。

(2) 就業構造 ; 自然環境とのかかわり合いは居住者の就業内容により異なること考慮し、産業三分別就業人口構成比の特化状況を指標として取り入れ、特定の就業状態に偏らないように配慮した。

(3) 地形区分 ; 居住地の自然の形はそれを構成する地形区分によって把握され、特徴付けることが出来る。この地形の状態は、居住者が日常的に体験するとともに、生活の在り方をも規定していると考えられる。地区の抽出では、これを中地形区分により当該地区の分類を行ない、特定の分類に偏らないように配慮した。

(4) 地 被 ; 地被の状態は、地形と一体的に把握され、景観的にも自然環境の状態としても重要な意味をもつと考えられる。本調査では各地区の地被の状態を土地利用によって把握し、多様な相が対象地区に含まれていることに留意した。

(5) 地形パターン ; 地形区分と同様に、居住地の自然の形を把握するため、地形構造の中における各地区の位置をパターンとして捉える。これは各地区をとりまくスカイラインの山々等の景観が居住地を特徴付けるものと考えられるからであり、各地区の抽出に当っては、出来るだけ多くの特徴をもつ地区が含まれるように配慮した。

### 3. 人々が好きで眺める風景

#### (1) 調 査 方 法

富士川流域圏の居住者と景観とのかかわりを把握するために以下に述べる様な地図記入によるアンケート調査を実施した。このうちの一問である「好きで眺める風景」について問と記入の方法について示す。

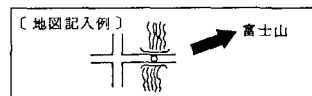
Q、お住いの周辺で風景を眺める場所として、好きな所がありますか。

1) その場所を地図上に記入して下さい。(添付地図 —  $S=1/10,000$ 、 $S=1/25,000$ 、or  $S=1/50,000$ )

2) その場所で特に眺める方向があれば矢印と、具体的な展望対象があれば、その名称を記入

して下さい。いくつでも結構です。

3) また、その場所のいつ頃のどんな風景がよいかを記述して下さい。



〔記述例〕 秋の夕暮に橋のたもとから眺める富士山

以上のアンケート調査票により、各地区(計20地区)内で各最低20サンプルを目標に調査員が各戸を訪問して趣旨を説明した上で配布し、4~5日後に再び訪問して解答をチェックした上、回収した。

#### (2) 集 計 ・ 分 析 結 果

Q1)、2)の結果から、好きな場所=視点場、眺める方向と具体的な展望対象=視対象、として各地区毎の視点場、視対象、回答合計、サンプル数を表3-1に示す。この中で視点場は、自宅を中心とその周辺、対象地区内、対象地区外に、視対象は、その距離により近景、中景、遠景に区分して集計した。

この集計結果から次のことが把握できる。

i 地区毎の回答合計の平均値の前後20%を基準に、回答数の多い地区(複数回答が多い)と回答数が少ない地区(回答なしが多い)と、地区の地形パターンとの関係を見ると、回答数の多い地区は比較的開けた谷間・盆地・平野等の山の辺又は水の辺(又はその双方)に位置しており、一方回答数の少ない地区は、深い谷間の奥の集落又は自然環境に恵まれない市街地の中であることがわかる。

ii 視点場と地区の地形パターンとの関係を見ると、本調査対象地区はおおむね自然環境に恵まれていることから、自宅及びその周辺から眺める風景が好まれている。しかし、谷間、平地、市街化した地区などでは、自宅からやや離れた地区内の景色の良い地点や地区外が視点場として選好される傾向にある。

iii 視対象と地区の地形パターンとの関係を見ると、各地区とも当該地区の位置する地形パターンを反映して谷間・小さな盆地等で近景が多く眺められ、やや大きな谷間で中景が、

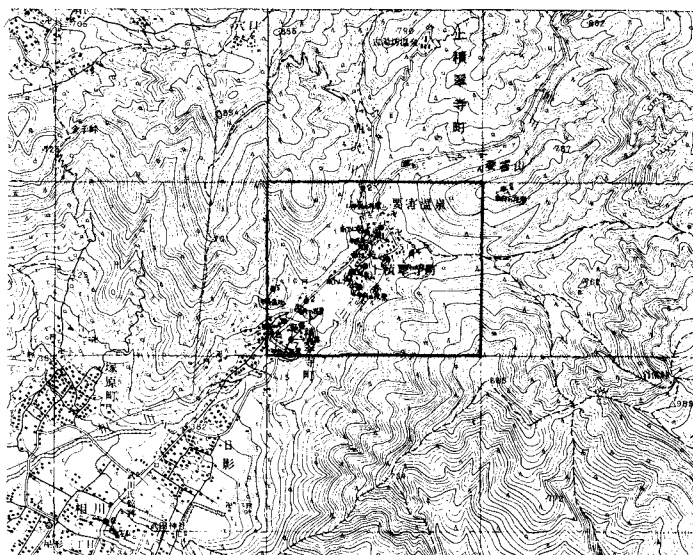
| 地区<br>No | サンプル数<br>(回収数) | 回答数<br>合計 | 視 点 場        |       |     | 視 対 象 |     |     |
|----------|----------------|-----------|--------------|-------|-----|-------|-----|-----|
|          |                |           | 自宅及び<br>その周辺 | その地区内 | 地区外 | 近 景   | 中 景 | 遠 景 |
| 1        | 25             | 20        | ■/7          | 2     | 1   | 4     | ■/3 | 3   |
| 2        | 25             | 21        | 7            | 9     | 5   | 2     | 4   | ■/5 |
| 3        | 23             | ●36       | ■29          | 1     | 6   | 1     | 8   | ■27 |
| 4        | 22             | 25        | 12           | 2     | 11  | 4     | 5   | ■/6 |
| 5        | 25             | 17        | 8            | 6     | 3   | 7     | 3   | 7   |
| 6        | 24             | 23        | ■/4          | 9     | —   | 8     | 10  | 5   |
| 7        | 25             | ●29       | ■25          | 4     | —   | ■/9   | 6   | 4   |
| 8        | 25             | 23        | 11           | 6     | 6   | 4     | ■/6 | 3   |
| 9        | 25             | 19        | ■/10         | —     | 9   | 1     | ■/2 | 6   |
| 10       | 24             | ▲/4       | 7            | 4     | 3   | 6     | ■/8 | —   |
| 11       | 25             | ▲/5       | ■/4          | —     | 1   | 3     | ■/2 | —   |
| 12       | 25             | 17        | 7            | 4     | 6   | 3     | 7   | 7   |
| 13       | 25             | 19        | ■/11         | 7     | 1   | 2     | ■/6 | 1   |
| 14       | 25             | 24        | ■/8          | 2     | 4   | —     | 2   | ■22 |
| 15       | 25             | ▲/5       | 4            | 4     | 7   | 1     | ■/2 | 2   |
| 16       | 25             | ●28       | ■24          | 1     | 3   | 12    | ■/4 | 2   |
| 17       | 25             | ▲/6       | ■/10         | 1     | 5   | —     | 4   | ■/2 |
| 18       | 25             | 23        | 11           | 10    | 2   | —     | 9   | ■/4 |
| 19       | 24             | ▲/1       | 5            | 3     | 3   | 2     | 2   | ■/7 |
| 20       | 25             | ●30       | 14           | 6     | 10  | 5     | 2   | ■23 |

※1)回答数の平均=21.25  
 ●→平均の20%以上  
 ▲→平均の60%未満

※2)特定の視点場・視対象が回答数の半数を超えたもの

大きな盆地・平地・丘陵的地形の連担する山の  
 の辺等で遠景が多く眺められていることがわ  
 かる。

視点場・視対象の関係を  
 更に、明らかにするために  
 調査集計図(図3-1)を  
 もとに次の模式図(図3-  
 2)によって各地区の分析  
 を行なった。図3-2は、  
 視点場と視対象の関係を甲  
 府市上横翠寺地区を例とし  
 て模式的に示したものであ  
 る。同様な各地区の模式図  
 により20地区のそれぞれ  
 の特徴を把握し、比較分析  
 を行なった結果、人々が好  
 きで眺める風景の特徴が次  
 の様に把握できる。



視 点

図2-2-4

No. 視点位置度  
 1 自宅 13  
 2 路上 2  
 3 山 2  
 4 神社 2  
 5 深緑地帯 2  
 6 上部分 1  
 7 下部分 1

No.1

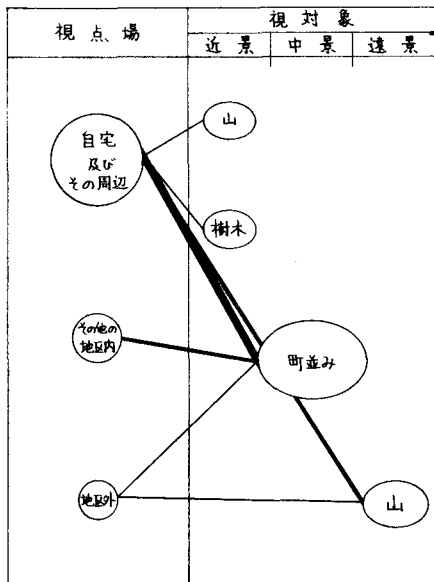
i 自宅及びその周辺から近景又は中景  
 を眺めている地区

この地区は谷間に在る地区であり、  
 谷間の入口(扇状地等)から谷間の奥  
 の畔に近い地区まで微妙に風景が変化  
 しているが、共通項として捉えられる  
 視点場・視対象の関係は、自宅及びそ  
 の周辺から近景又は中景が眺められて  
 いることである。これは、まだいずれ  
 の地区も自宅及びその周辺からの見通  
 しは確保されており、そこから、すぐ  
 近くの山の斜面の木々の変化や寺社を  
 眺めたり、やや離れた山々、町なみ、  
 河原等を日常的に眺めており、その風  
 景が四季それぞれに好まれていること  
 を示している。

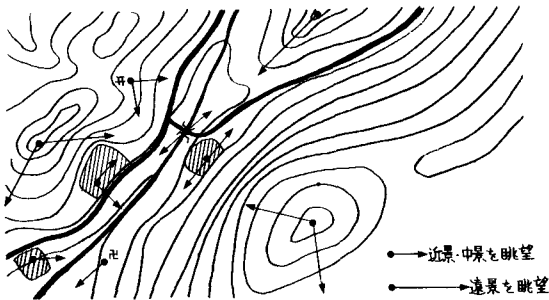
このほか、本地区の特徴としては、  
 谷の中にある小さな頂(丘の上)又は  
 谷を囲むスカイラインの畔等から部落  
 を眺めるとともに、谷の外の遠景が眺  
 められていること、谷の拡がり、大  
 きくなるとともに遠景を眺めることが  
 多くなり、視点場も地区外へ出ること

が増加することも把握された。

以上が該当する地区は、№1、8、10、11、12、  
 13、14、15、16で、これらの地区の眺望のパタ



ーンを図式的に示すと図3-3のようになる。

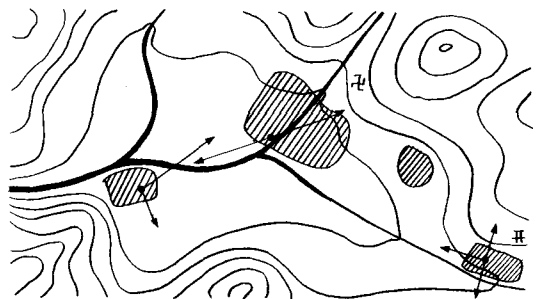


## ii 自宅及びその周辺から中景又は遠景を眺めている地区

この地区は盆地に在る地区であり、盆地の大きさにより視対象となる風景の距離は様々であるが、自宅及びその周辺から中景又は遠景が好んで眺められていることが特徴である。また、視対象の方向は、スカイラインの山々がどの方向にも選好されているが、際立った視対象がある場合（例；富士山……）には方向性が強く現われる場合もある。これは、多くの地区が自宅及びその周辺からの見通しが良く、そこから盆地斜面の地被が四季おりお

りに変化するのを楽しめ（例；春→桃・ぶどうの花、夏→緑、秋→紅葉、冬→雪景色）、その上の特徴的なスカイラインの山々を展望出来、低地の河原を眺めることも出来、それらが好まれていることを示している。また一部の平地では、市街化の進展により見通しが利かなくなっており、このため、周辺の小高い丘や、河川堤防上から盆地周囲の斜面及びスカイラインの山々を眺める例も現われている。

以上が該当する地区はⅡ2、3、4、5、6、7、9の各地区で、盆地内に位置し、その中の微地形によって、平地、やや小高い山の辺、低地の水の辺等の地区である。これらの地区の眺望のパターンを図式的に示すと図3-4のようになる。



## iii 視点場が地区内から地区外に拡がり、多くは遠景が好んで眺められている地区

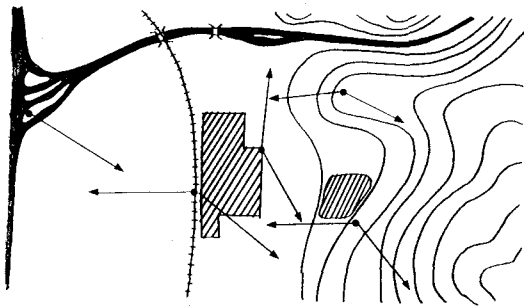
この地区は平野に在る地区であり、微地形によってやや異なるが、おおむね見通しは良いが中近景で際立った風景に恵まれることは少ないこと、市街化により各住居からの眺望が難しくなっていることから、好きな風景を眺めるのは、住居からやや離れた地区内（市街地の周辺、歩道橋上等）や地区外（海岸、小高い丘の上、河原等）で、多くは遠景が眺められている。市街化の進展、工場立地により、自宅及びその周辺からの自然的風景の眺望が難しくなり、その代償として、居住地周辺から離れた場所から遠景の風景を眺めてい

ることがわかる。

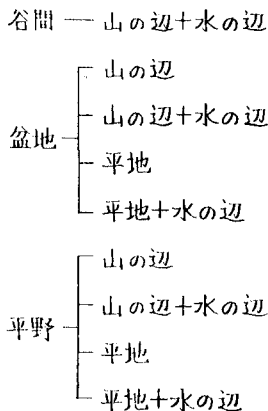
本地区の特徴としては、以上のほか、i、iiの地区で見られた自分たちの居住地（町なみ、部落等）を眺めることがないこと、遠景に際立った山等（富士山）がある場合には、視対象がそこに集中するが、それを眺める視点場は人それぞれ異なり拡散的であること等が挙げられる。

以上の特徴が該当する地区は№17、18、19、20の地区である

本地区の眺望のパターンを図式的に示すと図3-5のようになる。



各地区の好きで眺める風景と居住地環境との関係は、以上の各特徴によって把握される。これらを総括すると次の様な類型にまとめることが出来る。



#### 4. 身近なレクリエーション行動

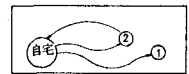
前の富士川流域圏における居住地環境と景観とのかかわりを把握するための質問とともに、次に示す身近なレクリエーション行動と居住地環境とのかかわりを把握するための質問を行なった。ひとつは、レクリエーションとして自然と接触する行為であり、二つは、周辺において現在出来なくなった自然との接触行動（失われた自然）である。

##### (1) 調査方法

質問の内容を示すと次の通りである。

Q 1、お住いの周辺や比較的近いところ（その場所に到達するのにマイカーや交通機関を使う場合でも乗っている時間が15分以内程度のところ）で、レクリエーションとして自然と接触するのはどのあたりですか。日帰りを対象とします。

1) その場所とそこまでのルートを図図上に示して下さい。いくつでも結構です。2ヶ所以上のときは番号をふって下さい。（添付地図；前章の地図と同じ）



2) さらに、それぞれの場所ごとに次の質問にお答え下さい。

Q 2、お住いの周辺、または比較的近いところでレクリエーションとして自然と接触する行動のうち、以前はできたが、現在できなくなったものがありますか。

1) できなくなったもの

|   |    |
|---|----|
| 1 | ある |
| 2 | ない |

2) 前問で「ある」と答えた方、それはどんなことですか。原因が思いあたる場合には、あわせて記入して下さい。またいつ頃からできなくなったかについてもお答え下さい。

3) それは、どんな場所でしたか。地図上で位置を示して下さい。（×印）

| できなくなった行動とその原因 | できなくなった時期  |             |              |            |
|----------------|------------|-------------|--------------|------------|
|                | 0～5<br>年前頃 | 5～10<br>年前頃 | 10～20<br>年前頃 | 20年<br>以上前 |
| 1.             |            |             |              |            |
| 2.             |            |             |              |            |
| 3.             |            |             |              |            |
| 4.             |            |             |              |            |
| 5.             |            |             |              |            |
| 6.             |            |             |              |            |

|     |                                |   |   |   |   |
|-----|--------------------------------|---|---|---|---|
| 〔例〕 | 水がよごれたのでホテル狩りでできなくなった。         |   | ○ |   |   |
|     | 土手がコンクリートの護岸にかわって、つみほができなくなった。 | ○ |   |   |   |
|     | 雑木林がなくなって、きのこ狩りができなくなった。       |   |   | ○ |   |
|     | 海岸が埋め立てられて、砂干狩ができなくなった。        |   |   |   | ○ |

## (2) 集 計 ・ 分 析 結 果

先づ各地区毎に、レクリエーション行動を上手（上流）に向ってゆくものと、下手（下流）に向ってゆくものに分け、更に距離を考慮して、地区内、周辺、広域に区分して示した。さらに、出来なくなった自然との接触行動の合計と内容毎に主なものとその中で水にかかわるものの合計とを一覧表で示す。

（表 4－1）

| 地区<br>NO. | サブ<br>NO. | レクリエーション行動 |     |     |    |    | 出来なくなった自然との接触行動 |            |            |            |            |            |            |            |            |            |
|-----------|-----------|------------|-----|-----|----|----|-----------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|
|           |           | 合計         | 地区内 | 周 辺 | 広域 | 合計 | 水に<br>かかわる      | 水に<br>かかわる | 水に<br>かかわる | 水に<br>かかわる | 水に<br>かかわる | 水に<br>かかわる | 水に<br>かかわる | 水に<br>かかわる | 水に<br>かかわる | 水に<br>かかわる |
| 1         | 25        | 36         | 1   | 10  | 3  | 11 | 11              | 12         | 11         | 4          | 4          | 2          |            |            |            |            |
| 2         | 25        | 37         | —   | 12  | 7  | 8  | 10              | —          | 5          | 5          |            |            |            |            |            |            |
| 3         | 23        | 49         | —   | —   | 10 | 9  | 24              | 6          | 10         | 8          |            | 2          | 2          |            |            |            |
| 4         | 22        | 25         | —   | 1   | —  | 13 | 11              | —          | 9          | 7          |            |            | 2          | 2          | 2          |            |
| 5         | 25        | 44         | 8   | —   | 28 | 3  | 5               | —          | 11         | 11         | 2          | 2          |            | 4          |            |            |
| 6         | 24        | 43         | 13  | —   | 4  | 1  | 19              | 6          | 6          | 5          |            | 4          | 2          |            |            |            |
| 7         | 25        | 30         | —   | 2   | 10 | 1  | 16              | 1          | 17         | 14         |            |            | 11         |            |            | 2          |
| 8         | 25        | 32         | 1   | 1   | 18 | 2  | 7               | 3          | 15         | 12         | 2          | 3          |            | 7          |            | 2          |
| 9         | 25        | 35         | 2   | —   | 12 | 1  | 14              | 6          | 19         | 19         | 5          | 4          |            | 8          |            |            |
| 10        | 24        | 25         | 4   | 1   | 5  | —  | 1               | 14         | 8          | 7          | 3          | 2          |            |            |            |            |
| 11        | 25        | 48         | 7   | —   | 6  | 4  | 29              | 2          | 19         | 18         | 6          | 6          |            | 4          |            | 2          |
| 12        | 25        | 76         | 3   | 2   | 10 | 27 | 24              | 10         | 4          | 2          |            |            |            |            |            |            |
| 13        | 25        | 32         | 1   | —   | 7  | 3  | 21              | —          | 23         | 20         | 13         | 6          | 2          |            |            |            |
| 14        | 25        | 30         | 3   | —   | 3  | 15 | 4               | 5          | 5          | 1          |            |            |            |            |            |            |
| 15        | 25        | 26         | 5   | 5   | 4  | 3  | 9               | —          | 18         | 12         |            | 6          | 3          | 5          |            |            |
| 16        | 25        | 27         | 2   | 3   | 4  | 5  | 12              | 1          | 22         | 16         | 3          | 7          | 2          | 5          |            | 2          |
| 17        | 25        | 33         | 8   | —   | 9  | —  | 14              | 2          | 14         | 6          |            |            | 3          | 2          |            |            |
| 18        | 25        | 30         | —   | —   | 3  | 2  | 20              | 5          | 3          | —          |            |            |            |            | 2          |            |
| 19        | 24        | 39         | —   | 1   | 1  | 4  | 12              | 21         | 5          | 5          |            |            |            |            | 2          |            |
| 20        | 25        | 46         | 3   | —   | 9  | 21 | 5               | 8          | 7          | 5          |            |            |            |            |            |            |

※ 回数平均 = 37.15 ● → 平均の 20% 以上 ▲ → 平均の 80% 未満

また、Q 1－1) のレクリエーションルートとその対象、Q 2－3) の出来なくなった自然との接触行動の場所とをそれぞれ地図上に集計（例；図 4－1、4－2）し、前記の表 4－1 とともに分析すると、いくつかの特徴的な事柄が把握できた。

## i レクリエーション対象として好まれている地区

身近なレクリエーション行動（自然との接触行動）の結果は各地区の人々がそれぞれ自前の好きな対象を持っていることが把握された。この好きな対象は極めて広範囲かつ対象の特徴も多様である。しかしながら、この多様な対象は、その自然の姿・居住地のパターンとの関係等を整理してゆくと、人々の好むレクリエーション対象の姿が浮び上ってくる。これらについて際立った特徴を次に整理する。

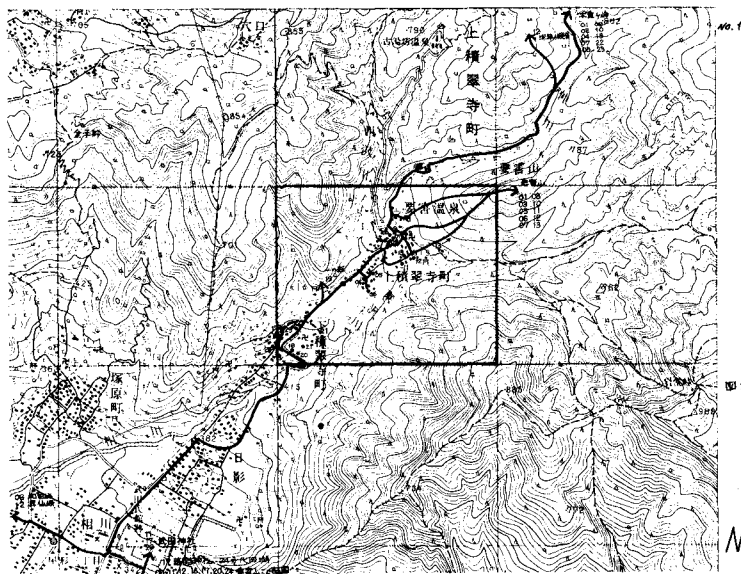
### 1) 谷の奥

主に谷間に住む人々（この場合、谷間の入口〔盆地山の辺になる〕の人々も含まれる）が好んで対象としている地点であり、谷間の山ひだにある社や寺院（例； $\#$ 6 大滝不動、 $\#$ 7 大積寺）や谷間の中にあり地区を見下すことが出来る独立峰（例； $\#$ 1 要害山、 $\#$ 10、13 身延山、 $\#$ 12 パノラマ台）谷間を上り切って風景が一変する峠（例； $\#$ 1 太良ヶ峠、 $\#$ 9 右左口峠、 $\#$ 12 中ノ倉トンネル出口）、そして峠を抜けた先に在る際立った風景地（例； $\#$ 11、14 本栖湖）等々がこれらに該当する。

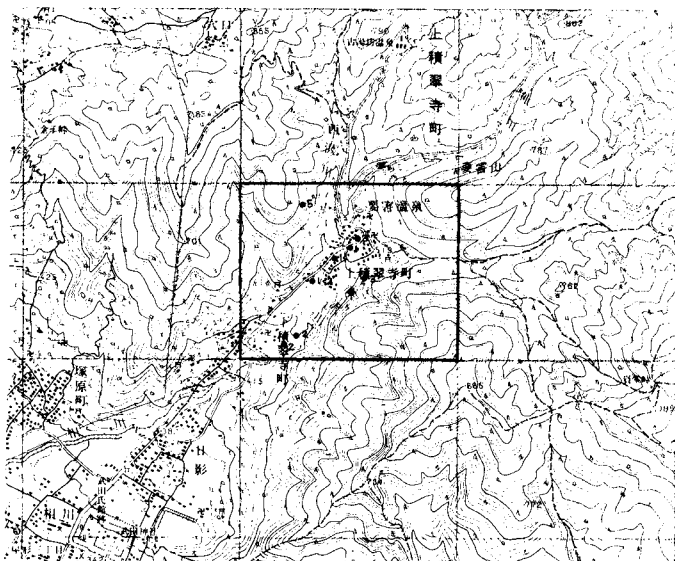
これらの各地点は谷間に住む人々が古くから信仰の対象としていた地点が少なくない。すなわち単なるレクリエーション対象ではなく、谷間の生活とかかわって様々な意味に於いて人々が接していることが推察される地点であり、自然の構成に於いても地形の折り重なり、水、植生、景観等が複合的に絡み合った視覚的にも快適な地区であると言える。

### 2) 山の辺

前項の様に特に好まれる居住地のパタ



No.1



できなくなった  
こと(もの)

図2-2-44

No. 対象名 数

- |           |   |
|-----------|---|
| 1. いで遊べない | 4 |
| 2. 魚がへった  | 4 |
| 3. 川にからぬ  | 2 |
| 4. 釣      | 1 |
| 5. 水に遊ぶ   | 1 |

No.1

ーンはなく、どの地区の人々にも好まれているレクリエーション対象であり、本地点の特徴は、解放的であり雄大な眺望が広がっていることであり、地点の地形条件も、平地を見下す小高い丘、山の頂などで盆地・平野から山地への変化する位置、すなわち山の辺に在る。例としては、№1、2、3、地区の人々が好む愛宕山子供の国、№2の鶴舞公園、№5の山梨岡神社、№6の勝沼町営ぶどうの丘センター、御所天神、№7の大久保山、№18の丸火自然公園、等が該当する。

### 3) 水の辺

各居住地周辺の地形的条件を反映して、その在り方は様々である。すなわち、谷川の溪流、平地の大河川、山の湖、河口、海岸等々と称される地点である。この地点を好む人々は、主に平地の人々が眺望を得るために小高い河川堤防上へ、又様々な親水の行為に、スポーツ等のために河川敷へ、として好まれているのを中心に、どの地区の人々も好んで対象としている。例としては、№2地区の人々の好んで接する荒川土手(河原も)、№3、4、5の笛吹川、№4の釜無川、№5、6の万力河川敷公園、№11、12、14の本栖湖、№13、16の富士川、№17の白糸の滝、№19、20の富士川河川原と緑地公園(河口)、№19の田子の浦海岸(港入)等々が該当するレクリエーション対象である。

### ii レクリエーション行動のパターンと居住地との関係

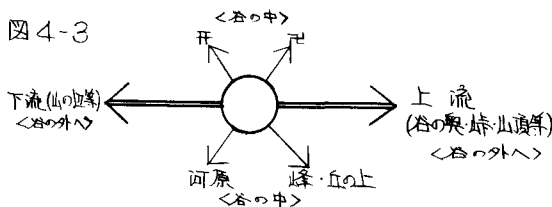
身近なレクリエーション行動は前項で触れた好まれる対象を中心として、そこに至るルートをも含んで選好されていることが、散歩・散策といった行為も含んでいることから推察される。本項では、このため行動パターンを中心に居住地・対象との関係に着目しつつ分析を行なった結果、各地区の居住者の示すレクリエーション行動のパターンが大きく、居住地の地形的特徴との関係によって類型化された。次にそれらについて概略の特徴を述

べる。

### 1) 谷 間

谷間に居住する人々の身近なレクリエーション行動の特徴は、谷の上流（奥・峠・山頂等）への行動と下流の山の辺への行動が中心となる。すなわち居住地に対して明確な方向性をもつことである。これは、地形的に谷間であることによる制約が強く反映されているが、必ずしもそればかりではなく、谷の外側の全く環境の異なる地点への選好をしてそのパターンが形成されると見ることが出来る。このパターンと居住地・レクリエーション対象との関係を図示すると図4-3のようになる。

図4-3



このほか、谷間に居住する人々は、それぞれ好みの散策ルート・対象をもっており、それらが谷の斜面にある林の中、小さな沢、斜面で見晴しのよい地点、裏の寺院・神社等が次のレクリエーション行動の対象地として選好されている。

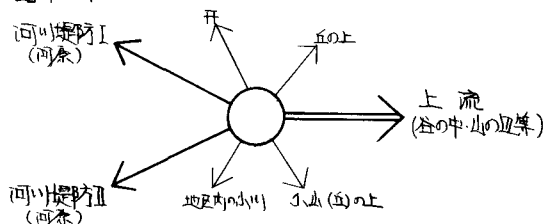
### 2) 盆 地

盆地に居住する人々のレクリエーション行動のパターンは谷の如く、特に明確な方向性は見られない。居住地が盆地のどの位置に立地しているかによって微妙に異ってはいる。すなわち、盆地中央の平地の地区の場合、近くを流れる大河川と盆地山の辺の丘陵が選好されており、それらが中心のルートとなり他にも様々なルートが見られる。この場合にも特に方向性は見られない。また、盆地山の辺の地区の場合は、上流への行動は谷に入るため谷間の居住地の場合と同様なパターンを示すが、平地に下る方向では特に方向性は見られない。

盆地の居住者のレクリエーション行動の

パターンは、選好される対象が盆地を見下す盆地周辺の山々、広々とした盆地周辺のスカイラインを見渡せる河川堤防・河原等であり、その距離は一定ではないが特に遠距離ではない。このパターンと居住地・レクリエーション対象との関係を図示すると図4-4のようになる。

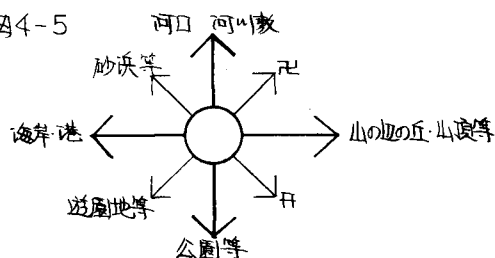
図4-4



### 3) 平 野

平野に居住する人々のレクリエーション行動のパターンは、盆地の場合よりも更に方向性が不明確となる。盆地における平地、山の辺と同様の条件が平野にも該当するにもかかわらず、である。これは、平野では、道路が整備されていること、経済的活動が最も活発な地域であるためレクリエーション行動に利用されるルートが必ずしも快適なルートではないためか、人々は同じ対象に向うために様々なルートを選択しており、これは谷や盆地ではあまり見られなかった傾向である。この他、平野におけるレクリエーションルートは盆地・谷の地区に比べてやや長く、平野に住む人々は、より遠方へと行動していることも注目すべきことである。対象となる地点としては、山の辺の平野を見渡す小高い丘、山頂等、河川敷、河口、海岸等の広大なオープンスペースが広がる地点が多く選好されている。以上のパターンを図示すると、図4-5のようになる。

図4-5





### Ⅲ レクリエーション行動の活性状況

本章の冒頭で示した表(4-1)で集計したレクリエーション行動の地区別の発生頻度を見ると、地区によって大きなバラツキがあり、それらには一定の類似性、相連性が認められる。それらについて分析を行って見る。各地区のレクリエーション行動の頻度の平均を求め、±20%以上又は以下を抽出して、それらの地区の居住環境について考察する。

#### 1. レクリエーション行動の活発な地区

この範囲で抽出された地区は、居住環境として最も恵まれた地区が極めて卓越した景観の中に在る地区である。また居住環境として極めて条件の悪い地区であるが近くに卓越した景観があるために活発なレクリエーション行動を示す地区もある。

前者で抽出された地区は、いずれも山の辺に在り南東斜面で北西に山地が控え、南東側に雄大な眺望の開ける地区であり(Ⅵ3、Ⅵ20)卓越した景観の中に在る地区は、山の辺であり水の辺でもある(Ⅵ12)。また後者の地区は、谷間の奥にあり(Ⅵ11)更に奥に上るとⅥ12地区の在る本栖湖に至る位置に立地している。

#### 2. レクリエーション行動が不活発な地区

この範囲に該当する地区は、いずれも居住環境としても条件が必ずしも良くない地区である。すなわち、盆地の最低部に在り、盆地のスカイラインの南側に近く、大河川にはさまれた地区(Ⅵ4)、そして他は谷間の中央部で、周辺に特に際立った風景地がなく、山合いのため日照にも恵まれず、南面する居住地の少ない地区である(Ⅵ10、15、16)。

以上、レクリエーション行動の活性状況は、後述する居住環境として重要な地点を考える上で十分に示唆的であると言えよう。

### Ⅳ 出来なくなった自然との接触行動(失われた自然)

Q2の集計(表4-1)から直接レクリエーション行動にかかわる内容について分析した結果を記しておく。

出来なくなった自然との接触行動のうち、多くの人々が解答した内容は、1.魚とり・釣り等、2.ホタル狩り、3.川での水泳・水遊び・海水浴、4.山菜・きのこ狩り等、が特に多いものである。これらの原因として、人々は、河川護岸、工場、水質汚濁、開発、農薬、砂利採取、ダム等による水量減、宅地化、埋立て、森林の荒廃、乱獲、放牧地化、土手のコンクリート化、交通量の増加、等々様々な理由を指適している。これらは、いずれも、居住地の周辺の身近かで起っており、レクリエーション行動との関係で見ると、それらを身近かで喪失させることになったと思われる。

Q2の結果で最も特徴的な点は、出来なくなった自然との接触行動のうち、実に78.6%が水にかかわる行動であったことである。このことは、水にかかわるレクリエーション行動から親水的な行動を失わせる結果になっていることが推察され、水の辺が現在では好ましい空間とは必ずしもなっていないことを示すものと言えよう。

### 5. ま と め

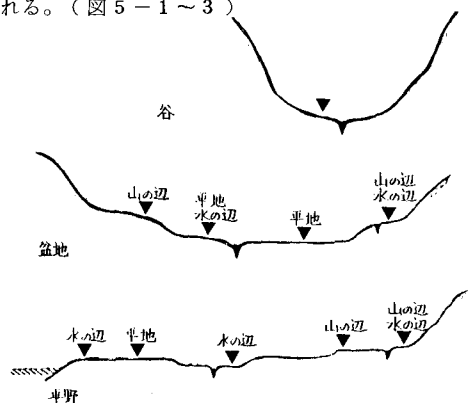
富士川流域圏各地の居住者に対する、好きで眺める風景、及び身近な自然との接触行動、失われた自然のそれぞれに対するアンケート調査の結果は、前項迄の分析結果で示したように整理される。本項では、これらを更に要約的に整理を行ない、まとめとした。

#### (1) 好きで眺める風景

人々が好きで眺める風景を居住地環境・視点場・視対象の相互関係の中で総括すると次の様に整理される。

1) 視点場と視対象との関係から、居住地における自然環境を分類すると、i 谷間に在る地区、ii 盆地に在る地区、iii 平野にある地区に大きく特徴付けられ、ii が更に、山の辺の地区、平地の地区、水の辺の地区(平地)、山の辺・水の辺の地区に、iii が更に山の辺の地区、平地の地区、水の辺の地区(平地)、山の辺水の辺の地区に類型さ

れる。(図5-1~3)



2) アンケートの回答状況から、自然環境と眺望に恵まれた居住地では活発に風景が眺められているのに対して、それらに恵まれない居住地では、風景を眺める行為が活性化しない傾向が見られ、それらの地区では、眺望が目の前の斜面や連担する建築物等で遮ぎられていることが把握され、このためか、地区の外側に出て風景を眺める傾向がある。以上の傾向は、谷間の奥、盆地の平地、平野の平地等に多いことが把握された。これを図式的に示すと下記の様に示される。

| 山目       | 地区 | 自然環境に恵まれた地区 | 自然環境に恵まれない地区 |
|----------|----|-------------|--------------|
| 好きで眺める風景 |    | 多い          | 少ない          |
| 見通し      |    | 良い          | 悪い           |
| 眺望を楽しむ場所 |    | 自宅及び周辺      | 自宅の隣りか離れた所   |
| 地形       |    | 山の辺         | 谷の奥・平地等      |

## (2) 身近なレクリエーション行動

居住地周辺の身近なレクリエーション行動の分析から得られた事柄を整理すると次のようになる。

1) 身近なレクリエーション対象地として好まれている地区が、ⅰ谷間の奥、ⅱ山の辺、ⅲ水の辺、の各地区であり、これらは、ⅰが主に谷間に住む人々が好んでおり、ⅱは全ての地区の人々が、ⅲは平地の人々を中心に全ての地区の人々に好まれていることがわかる。

2) レクリエーション行動のパターンと居住地との関係を見ると、地形条件に制約されつつレクリエーション行動が行われており、ⅰ谷間では地形が特に強く作用して2方向への行動が強く、ⅱ盆地では、そのどの位置に居住地が立地しているかによって2~3方向を主に多くの方向が選好され、ⅲ平野では全くその方向性は認められなかつ

た。

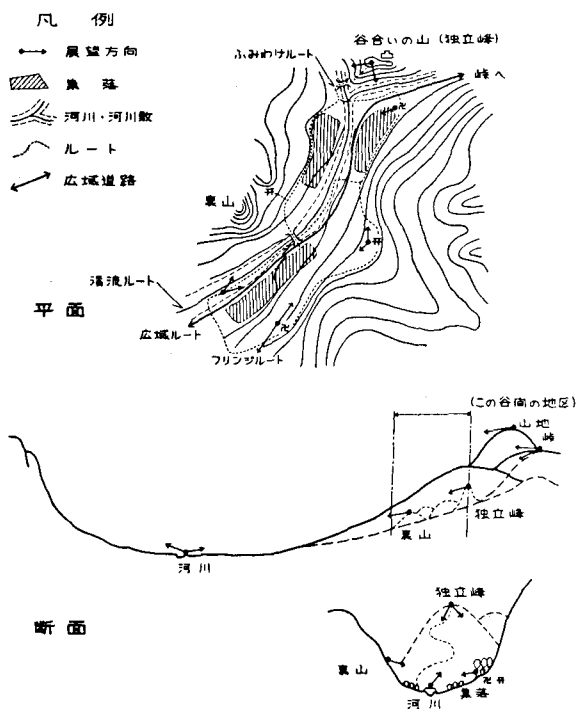
3) レクリエーション行動の回答状況から、それが活発に行われる地区と不活発な地区に区分される。前者は、景観の卓越した地区又は全く景観的には恵まれないが近くに卓越した景観地をもつ地区であり、後者は景観的に恵まれず、居住環境としても条件の悪い低地に該当するか又は谷間の中で特に景観の特徴のない地域である。

## (3) 失われた自然

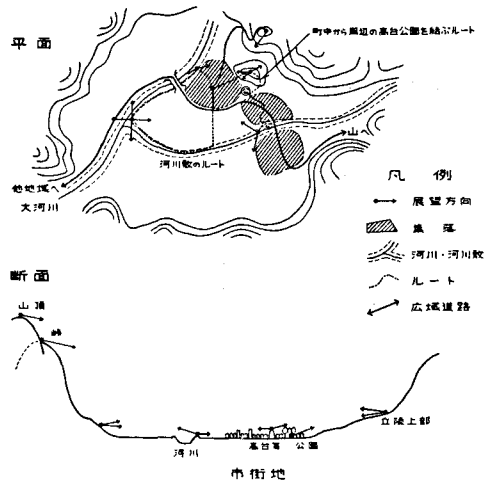
自然との接触行動のうち、以前は出来て、現在は出来なくなったものを把握することにより、どのような地区が自然環境の中で最も大きく変化しているかが明らかとなった。すなわち、多くの人々が指摘したのは水に係わる行動であり、水辺の自然環境の中から親水的(水との接触)な行動が今では大巾に失われたことを示している。以上から、水のもつ、自然環境から見た重要な地点としての意味が以前に比べて低下して来ていることが推察された。

以上の好きで眺める風景と身近なレクリエーション行動をまとめた各パターンのモデル図を谷間、盆地、平野について次に示しておく。

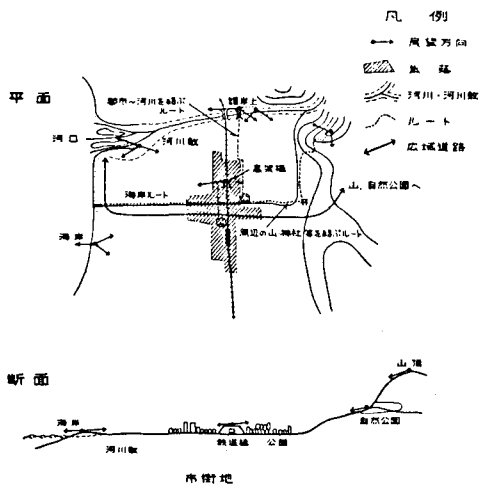
## □ 谷間のモデル



# □ 盆地のモデル図



# □ 平野のモデル図



本研究を進めてゆく際に、下記の方々に多くの御助力をいただきました。謹しんで謝意を表します。

青木 陽二      国立公害研究所総合解析部研究員  
 恵 小百合      (財) 政策科学研究所主任研究員  
 原岡 和泉      (株) べるく研究員